

地区社協からはじまる地域の支えあい

地域で支える福祉を！

福祉のまちづくりと地区社協

地域社会の現状は

現代社会は、隣に住んでいる人と普段のお付き合いがない、という方も多くなりましました。都市部やアパート・マンションなどでは、名前も顔も知らないという地域もあります。ひとり暮らしの高齢者が、病気をこじらせて、1ヶ月も誰も知らなかったという事件(孤独死)が後を絶たないのも、こうした背景が大きな要因になっています。

病気になるったり、家族の中に心配ごとができる、しばらくは親戚や親しい友人、職場の同僚などにも、打ち明けられない、話したくないと誰もかと思っています。しかし、その心配ごとが長く続き、誰かの助けが必要になったときに、どうすればいいのでしょうか。

やはり、家族だけでどうしようもないときには、親戚、親しい友人、同僚、そしてちょっとしたことは、隣り近所に頼むこともあるのではないのでしょうか。公園で知り合った子育て中のお母さんが、お互いに



川田谷地区社協親子福祉体験

子どもを預かりあって、お使用などをしている例があります。困っている人を、隣り近所の住民が助け合える環境があれば、安心して暮らすことができます。

地区社協の組織について

市社協では、こうした地域の支えあいの組織として、「地区社協」づくりを提案しています。自治会や区を最小の単位として、現在は、市内3ヶ所に地区社協ができています。(20の自治会、計約4千5百世帯)

末広地区社協
川田谷地区社協
寿2丁目地区社協

地区社協の役割は、次のようなものです。

- ① 福祉ニーズの把握
(困っている人がいないか)
- ② 近隣見守り活動
(お年寄りへの訪問など)
- ③ その他の福祉活動
(敬老会、研修会、バザー等)

それぞれの地区社協で、町会役員・民生委員・老人会、子供会役員・ボランティアなどが一緒になって、地域のために活動しています。地区社協では、約20世帯に1人置くこととしている「福祉委員」が実際の活動を行います。



末広地区社協研修会

地区社協ができること

現在活動している地区社協の役員さんからは、次のような声をいただいています。

① 住民同士の親しい関係ができる

役員間の交流や友愛訪問などの活動を通して、地域の人びとが互いに親しくなります。

② 構成している団体も元気になる

子ども会や老人会なども、役員同士が親しくな